



奈良学園大学 人間教育学部 音楽専修 教授  
青山 雅哉

今年度から始まった奈良学園大学登美ヶ丘カレッジとして、第3回は「室内楽の調べ」をテーマとして、様々な楽器のアンサンブルによる音楽の演奏をお楽しみいただけます。

ソロ楽器のピアノ、バイオリン、チェロ奏者でいろいろな組み合わせの曲目による共演や奈良県立登美ヶ丘高等学校・奈良県立国際高等学校の吹奏楽クラブからアンサンブル演奏での賛助出演を予定しております。色とりどりの音の響き合う様をお聴きいただき、寛ぎのひとときをお楽しみください。

開催予定

日時：令和3年8月22日(日) 10:00~11:30

会場：奈良学園大学登美ヶ丘キャンパス エクササイズルーム



※新型コロナウイルス感染症の影響により、予定されている日程・開催時間等が変更となる場合がございます。最新情報は随時ホームページで更新いたしますのでご確認ください。

## 奈良学園大学ニューズレターについて

奈良学園大学社会・国際連携センターでは、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、令和2年度は自粛中止の代替として、「奈良学園大学ニューズレター」を発行致しましたところ、大変御好評を頂きました。そこで、令和3年度以降も「奈良学園大学ニューズレター」発行することを決定致しました。

私たちは、コロナによって学びを止めません。在学生、卒業生、保護者、教職員、地域の皆様方と共に学び合う機会を前に進めてまいります。今後よりニューズレターの内容について、ご支援・ご期待頂ければ、有り難く存じます。



奈良学園大学 社会・国際連携センター長  
善野 八千子

発行

奈良学園大学 登美ヶ丘キャンパス  
社会・国際連携センター

〒631-8524 奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1  
TEL: 0742-93-5405 FAX: 0742-95-9850

## 第1回奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ開催

### テーマ「さまざまな認知症—認知症の多様な原因疾患と対処法」

6月19日(土)に奈良学園大学登美ヶ丘キャンパスで第1回登美ヶ丘カレッジが開催されました。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響のために中止となった本事業でしたが、2021年度はソーシャルディスタンスを確保し、現地とオンラインの同時開催(ハイフレックス型)で実施されました。

本学保健医療学部の西川隆教授が講師を務め、テーマは「さまざまな認知症—認知症の多様な原因疾患と対処法—」の講演でした。内容は、認知症といってもさまざまな原因疾患と症状があるため、認知症の予防方法や対処法、治療方法などの大変分かりやすい説明でした。

最近話題の日本とアメリカの製薬会社が共同で早期アルツハイマー病向け治療薬を開発したという発表がありましたが、講義の中では脳内に蓄積されるアミロイドベータと呼ばれる粘性タンパク質を除去することで、認知機能低下などの症状を遅らせるという機序が説明され、参加者は熱心にメモを取っておられました。ただ、症状が出る前に使用開始する事がどのくらい現実的か、また、費用も年間600万円を超えるなど、皆が平等に使える段階にはないと思われるという説明もありました。

会場での受講およびオンラインにおいて、13名の参加者に聴講していただき、熱心にご質問をいただきました。高齢社会において認知症は重要なテーマの一つであります。今後も地域の方々に還元できるテーマで登美ヶ丘カレッジを開催していきたいと思っております。



## 奈良学園大学周辺施設の紹介 学研奈良登美ヶ丘駅編

本学の最寄り駅「学研奈良登美ヶ丘駅」を紹介いたします。ご原稿は、近畿日本鉄道(株)学研奈良登美ヶ丘駅 助役 鈴木勝利様より頂きました。



近鉄けいはんな線 学研奈良登美ヶ丘駅は、2006年3月27日「人に優しく便利で快適!!」をコンセプトに開業しました。やさしい雰囲気とシャープなイメージのガラスがモダンな外観です。当駅は「学研：関西文化学術研究都市の略称」の名前が示すように国立国会図書館やけいはんなプラザへのアクセスポイントとなっています。奈良市と生駒市にまたがり京都府相楽郡精華町との県境にも近く、大阪市高速電気軌道(大阪メトロ)中央線と相互直通運転を行っています。けいはんな線は、他の近鉄線車両とは集電方式が異なる第三軌条方式(電気鉄道の集電方式のひとつ)を使用しており、駅間最高速度は日本国内最速の95km/h(生駒駅-白庭台駅間)を誇りますが、学研奈良登美ヶ丘駅を含む全駅で赤外線検知式ホームセンサーが設置されて、快適かつ安全に利用していただけます。

1日あたりの乗降人数は、新型コロナウイルス感染症の影響で7,900人(2021年5月)と大幅に減少しましたが、開業以来年々増加し2018年11月13日調査では、14,165人に上りました。学研奈良登美ヶ丘駅はこれからも人にやさしく便利なサービスの提供を目指します。



岡部さん・荒木さん・安藤さん

ニューズレターに掲載していただきありがとうございます。学研奈良登美ヶ丘駅周辺は商業施設、住宅が新しくできており、これからも発展していくと思われます。地域の皆様が安全・安心にご利用いただける駅であるようこれからも努めてまいります。



## 奈良学園大学ニューズレター発刊にあたってのご挨拶



奈良学園大学 学長 辻 毅一郎

こんにちは。すでにご存じと思いますが、奈良学園大学人間教育学部は令和4年4月、保健医療学部がありますここ登美ヶ丘キャンパスに新しい校舎を建設して移転、教職員と学生合計約650人が現在の三郷キャンパスから引っ越して参ります。隣には奈良学園登美ヶ丘幼小中高があり、近隣には国立国会図書館、国際電気通信基礎研究所、奈良先端科学技術大学院大学など日本有数の知の拠点があります。周辺の街並みは新しく綺麗で活気にあふれています。このように優れた環境の下で奈良学園大学は、この移転を今後の更なる発展のこの上もない良い機会ととらえています。人間教育学部は三郷町で地域の方々とともに良い連携・交流をさせていただいています。こちらでも是非、地域の方々との交流を深めさせていただきたいと望んでおります。保健医療学部と合わせて約2倍の人数になり賑やかになるかと思いますが、よろしくお付き合いくださいようお願いいたします。

## 奈良学園大学の教員紹介

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科

高橋 千香子 先生



大学では主に保育者をめざす学生たちを中心に講義を担当しています。専門分野は臨床心理学で、乳幼児期から思春期青年期の心理発達、親子関係、心理療法やカウンセリングの研究をしています。大学に勤めるまでは、臨床心理士として公的機関の相談室やスクールカウンセリングの仕事を通じて、多くの方と出会ってきました。本学では毎週水曜日の午後、「親と子の相談室ひまわり」を開室しています。コロナ禍の子育ての悩みもお聴きします。どうぞお問い合わせください。

奈良学園大学 保健医療学部 看護学科

山崎 陸世 先生



私は精神看護学を専門領域として看護教育に携わっております。看護学生が臨地実習でさまざまな体験を乗り越える力(レジリエンス)について研究中で、レジリエンスを育成する方法を考案したいと考えています。また、心身共にリフレッシュを目標にラフターヨガ(笑いヨガ)をしています。今はグループで集まって笑う機会が少なくなっていますが、新型コロナウイルス感染症が収束したら本大学で活動を再開したいです。

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

野田 優希 先生



私はリハビリテーション分野の中でもアスレチックリハビリテーションを専門としています。これは主に、スポーツ活動によって生じた急性外傷や、使い過ぎ(オーバーユース)による障害に対するリハビリテーションです。

また、傷害予防も理学療法士の重要な役割であり、スポーツ現場に出向き選手・チームをサポートするような活動も行っています。

スポーツのケガや予防に関するご質問があればぜひご相談いただければと思います。

## 卒業生からのメッセージ



奈良学園大学  
人間教育学部1期生  
長野 かおる さん

私は、奈良学園大学を卒業後、奈良市立小学校の教員になって4年目になります。

今でも「最新の教育情報の提供」を頂く大学の先生とつながっています。

3年連続の6年生担任で、今年度もいろんな児童に出会い、楽しい日々を過ごしています。

子どもたちの成長を見守りながら、私も負けていけないと思います。これからも日々学び続けたいです。

登美ヶ丘キャンパスは2022年度からワンキャンパスになるので、研修会などの機会も増えそうに楽しみにしています。

## 在学生からのメッセージ



奈良学園大学  
保健医療学部  
リハビリテーション学科  
青山 侑樹 さん

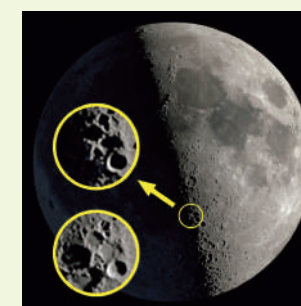
私は2019年に新設されたリハビリテーション学科に1期生として入学しました。リハビリテーションの勉強は高校までの勉強とは違い、全く新しいことを多く学びます。難しいところもありますが、人の身体のことを学ぶのはとても面白いです。たくさんの最新の機器を使いながら勉強ができるのでとても良い環境で学んでいます。今は3年生になり、仲間や先生と関わりながら本格的に臨床実習や国家試験に向けた勉強が始まっています。新型コロナウイルスの影響でモチベーションを保つのが大変でしたが、今年度からの対面授業で仲間や先生に会えたので、協力しながら頑張っていきたいです。

## 季節のコラム 月面X

今年のお盆の夜は、半月(上弦の月)が南西の空に懸かります。今から17年前の2004年8月22日、ちょうど同じような半月を望遠鏡で観察していたアマチュア天文家のデイヴィッド・チャップマンは、それまで誰も気づかなかった「X」の文字が月面に現れていることを発見しました。

今では「月面X」と呼ばれているこの現象は、ブランキヌス、ラカイユ、プールバツハという3つのクレーター境界部分に、太陽光が真横から射すことで起こります。

月面Xは、月が1回満ち欠けする間(約29.5日)に1時間ほどしか起こりません。見るためには、その時刻が夜で、しかも月が上っているという条件も加わるため、年間平均2~3回しか見られない珍しい現象です。しかし、今年は月面Xの「あたり年」で、見られるチャンスが6回訪れます。うち3回はすでに過ぎましたが、あと3回、8月15日20時頃、10月13日20時頃、12月11日22時頃に見られるチャンスがあります。



月面Xを肉眼で見るとは難しく、10倍以上の双眼鏡か望遠鏡が必要ですが、お持ちの方はぜひ観察してみましょう。

(文/嶋田 理博・奈良学園大学、日本天文教育普及研究会会員)

2021年8月15日20時の月面のCG。  
左上丸囲みは月面Xの拡大画像。  
左下丸囲みは9時間後の同じ場所の様子。  
NASA Scientific Visualization Studio (<https://svs.gsfc.nasa.gov/4874>) の画像を元に作成。